

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人林昌司の上告趣意について、論旨一、二点は憲法違反を主張するけれどもその実質は、単なる訴訟法違反の主張に帰する（昭和二十三年（れ）五一二号同二十四年三月二三日大法廷判決判例集三卷三五二頁、同二十二年（れ）一七一号同二十三年五月五日大法廷判決判例集二卷五号四四七頁参照）し、同第三点は単なる事実誤認の主張であつて、刑訴四〇五条に定める上告適法の理由に当たらない。また記録を精査しても同四一一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四〇八条により主文のとおり判決する。

この判決は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二十七年五月一五日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	沢	田	竹	治	郎
裁判官	真	野			毅
裁判官	斎	藤	悠		輔
裁判官	岩	松	三		郎